

防災シンポジウムで 街の取り組みを紹介

2月2日(日)広島市が主催する防災シンポジウムにA.CITY自治会が招かれ、西田会長・西川副会長が登壇しました。

シンポジウムは2部構成で、防災士でもあるRCCアナウンサー小林康秀氏の司会のもと、1部では2人の専門家による基調講演、2部では市内で活動する3つの自主防災組織が各々の取り組み事例を紹介しました。

A.CITY自治会からは、防災の取り組みをはじめたきっかけや防災士の養成計画、近隣地域を巻き込んでの活動、防災訓練の様子などを動画やスライドで説明し、ほかに、みどり坂町内会・早稲田学区社会福祉協議会から、子どもを対象とした防災キャンプの実施や「LINE」を利用した情報発信など工夫を凝らした先進的な事例紹介がありました。

パネリストとして登壇された兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の阪本真由美准教授や元広島市副市長・元消防庁国民保護・防災部長の室田哲男氏より、「防災は知識と能力だけでは不十分」「共に活動する仲間を増やしコミュニティを広げる」と

「防災の取り組みはゴールがなく継続することが重要」とのコメントをいただきました。

会場には大塚・伴南学区社会福祉協議会(略称・社協)の役員や防災士達が(社協で制作した)赤い防災士ベストを着用して参加し、結束力をアピールしていました。

今回は、専門家による講演や他地域の活動を学ぶ機会となり、今後の地域防災を考えていく上で大変参考になりました。

この様な機会をいただいた広島市に感謝すると共に、更なる取り組みを推進してまいりますので、今後もご理解ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



大塚小学校で講話 テーマ「ふるさと大塚」

1月31日(金)大塚小学校の6年生を対象に、近隣町内会の町内会長・自治会長が「ふるさと大塚」を

テーマに講話を行いました。

A.CITY自治会は、西田自治会長が「大塚の過去・現在・未来」で講話。今の6年生が生まれた年の2007年に起こった社会現象を紹介し、その年から現在に至るまで、大塚の地がどう変わったのか、社会はどう変わったのか、その変化する時代やグローバル化にどう適応したらよいのかをわかりやすいスライドで説明しました。

最後に、「コミュニケーション能力をつけるには地域行事に参加し、様々な世代や大人と交流することが大事」と地域の長らしい言葉で締めると子どもたちからは大きな拍手が。大塚小学校の先生方、よい機会をありがとうございました。



A. CITYの行事予定

2月 8日(土) 有価資源ごみ回収日
2月16日(日) 自治会定例役員会

2月22日(土) 有価資源ごみ回収日
2月23日(日) 大塚学区卓球大会

各住区で餅つき開催

昨年末のタワーズイースト住区開催に続き、ヒルズの各住区で恒例の餅つきが行われました。

1月12日(日)にはパレット住区、1月19日(日)にはアリーナ住区、そして、アーバン住区・フォレスト住区・ステージ住区の3住区は1月26日(日)に合同で開催しました。

各住区ともに、特色ある餅つきで、パレット住区は、50名が参加し、つきたてのお餅や住民特製の料理・お酒も含めてすべて完食する健啖な会となりました。

アリーナ住区は、今年も参加人数が80名を超える盛況ぶり。一時期は参加者が減少傾向でしたが、数年前から徐々に増え続け、昨年から高校生や赤ちゃんまで参加してくれる餅つき会に復活しました。

アーバン住区・フォレスト住区・ステージ住区は合同開催の強みを活かし、お餅のレパートリーが多種多様。恒例になったおろし餅(大根おろし+じゃこ+ネギ+ポン酢)やイチゴ大福のほか、今年は餅を生地にしたピザにも挑戦。BBQコンロの火力調整に苦戦し(焦がし)ながらも、みんなで分け合って頬張りました。住民手作りの

甘酢漬けなどの差し入れも含め、豊富なメニューに73名の笑顔と元気あふれる餅つきとなりました。

杵の使い方・餅の丸め方を近所の高齢者に教わる子どもたち。家庭ではなかなかできない経験に興味深々。マンで賑やかなうちに午後2時過ぎには市内でも珍しいそうです。ずっと続けていきたい行事ですね。



ANC新年交歓会開催

1月13日(月・祝日) 11時から63名の参加でANC最大の行事、新年交歓会が華やかに開催されました。

沖会長の挨拶に始まり、1部は、安糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病のある「あおぞら子供神楽団」により「鈴鹿山」が演じられ、子どもとは思えない立派な神楽で参加者全員が大う。



《ANCからのお知らせ》

「元氣じゃ検診」(特定検診) 受診のおすすめ



国民健康保険に加入している60歳から74歳の方であれば無料(個人で受診すると約8,800円で受診できます)。

この検診は死因の約60%を占める沖会長の挨拶に始まり、1部は、安糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病のある「あおぞら子供神楽団」により「鈴鹿山」が演じられ、子どもとは思えない立派な神楽で参加者全員が大う。

○検診期限
2020年3月31日まで

※いきいき活動ポイントが2ポイント付与されます。

○検診場所

最寄りの医院(とよた内科、斉藤内科、矢野脳神経外科など)で検診できますが前もってその旨連絡して下さい。

○持参物

広島市健康長寿課より2019年4月に送付されている受診券と国民健康保険証

※受診券を紛失された場合検診を受ける医院でも再発行しますが、健康推進課(☎504-2290)に連絡すれば再発行し送付してくれます。

○健診に関して全てのお問い合わせ
広島市健康推進課

☎082-504-2290

体育部よりお知らせ

第24回大塚学区卓球大会のご案内



大塚学区卓球大会参加者絶賛募集です。参加ご希望の方は、左記まで体育部・竹原

☎(080-3058-7811)

山口市自治会連合会 A・CITYを視察

1月22日(水)、山口市自治会連合会の清水会長をはじめ、山口市内各地区の自治会長10名がA・CITY自治会の視察に訪れられ、A・CITYからは、西田会長と田中・野稻・若本・西川の各副会長、山田専門委員がお出迎えしました。

最初に、清水会長のご挨拶をいただき、西田会長よりパワーポイントでA・CITY自治会の成り立ちからの歴史や各種イベントの説明・自治会加入率の問題・防災について等々、現在、自治会が抱えている事柄に対しての講演がありました。

また、各副会長からは、それぞれの立場から、“ご近所ミニネットワーク”“防災イベントでの住民参加型ゲーム”“目黒巻”“会計の仕組み”“実際に土砂災害特別警戒区域で起きた法面崩落”の模様、そして、ホームページ、FacebookなどSNSを利用した広報活動の紹介をしました。

その後、質疑応答に入りましたが、山間部・都市部と広範囲に渡る各自治会から最も多かった質問は、我々も抱えている問題と一緒に、加入率や役員の担い手不足ということでした。

最後に「A・CITYの自治会は皆さんが若く、活発に活動されている姿は素晴らしい」とのお褒めのお言葉をいただきました。13時〜15時の予定でしたが30分もオーバーするほど白熱した意見交換ができました。ありがとうございました。



有価資源ごみ回収品目 変更のお知らせ

現在、第2・第4土曜日に実施している有価資源ごみの回収ですが、回収会社より、回収品目変更の連絡がありましたので、お知らせします。

■今後の回収品目

- ①新聞・チラシ
- ②雑誌・本・空箱・牛乳パックなどの雑紙類（ハガキ以上の大きさ）
- ③アルミ缶・スチール缶・一斗缶・鍋などの金属類（一斗缶の大きさまで）

■変更内容

2月8日(土)の回収より段ボールの回収が中止されます。段ボールにつきましては、今後、広島市の指定回収日にお出しく下さい。詳細につきましては、各住区の掲示板や配布チラシにてご確認ください。



令和元年度

自治会総会のお知らせ

日時：令和2年3月29日（日）

午前11時から

場所：A・CITYプラザ

大ホール

議案：①活動報告・会計報告

②活動計画・予算

③自治会役員選出

皆様の出席をお待ちしています。

A・CITYの鳥たち

今回は、A・CITYからは少し外れますが、梶毛ダムのおシドリをご紹介します。

梶毛ダム（神原湖）には毎年11月から3月ごろまでオシドリがやってきます。周辺の開発等で少し数は減っているかもしれませんが、数年前には最大約650羽をカウントしました。渡来直後は特に警戒心強く、ダム湖東側の法面の茂みに隠れていることが多く見つけにくいかもしれません。2月から3月中旬ごろが観察しやすいと思います。

ダムの堰堤からの観察では少し距離があるので、双眼鏡やスコップがあった方がいいのですが、それなりの数が水面にいれば、肉眼でも十分楽しめます。梶毛ダムでは、オシドリのほかに何種類かのカモやカイツブリなども見ることが出来ます。

（パレット・勝尾）

※2016年から「愛読いただいた「A・CITYの鳥たち」は今号が最終回です。A・CITYの様々な鳥をご紹介くださった勝尾様、ありがとうございました。



《冬に多い火災》

集合住宅に暮らしていると、怖いのは火災ではないでしょうか？「収れん火災」という言葉をご存知でしょうか？「収れん火災」とは？

「収れん」は、一箇所に光を集めるという意味です。理科の授業で、虫眼鏡で太陽光を一点に集めて発熱させる実験をしたことがあると思いますが、これが「収れん火災」にあたります。

凸レンズ状の透明な物体、凹面鏡状の反射物などが収れん火災を引き起こす原因となりますが、身近にある意外なモノが収れん火災を引き起こす事例が、数多く報告されています。

冬になって、マンションの窓から差し込む太陽の光が、部屋の奥まで届くようになったことに気づいていますか？これは、冬場の太陽の位置が夏に比べて低くなり、太陽光が部屋の奥まで差し込むようになってきたためです。太陽光が差し込んだ場所に、収れん火災を引き起こすものがあれば、乾燥した空気の室内ではあつというまに火が広がってしまいます。

まず、太陽光が室内のどのくらいの

位置まで差し込んでいるか、そのまわりに収れん火災の原因となるものを置いてないか、確認してみましよう。

（収れん火災の原因になる身近なもの）

- ・凹面鏡
- ・老眼鏡替わりのルーペ
- ・ステンレスのボウル
- ・水の入った花瓶
- ・金魚鉢 ・水晶玉
- ・水の入ったペットボトル
- ・窓に貼り付けた透明な吸盤

こんなものが火災を引き起こす？と思うかもしれませんが、最近インテリアとして人気のサンキャッチャーに付いた水晶玉も注意が必要です。高層ビルが連立している所では、ビルの反射光から収れん火災を引き起こした事例も報告されています。もし、まわりに太陽光を反射させる建物があるようでしたら、そこから差し込む光の届く範囲にこれらのものを置いていないか確認してください。

（防災士・アリーナ住区 野稲幸子）

A.CITYの防災士紹介



ヒルズアーバン
田村 尚久
（敬称略）

管理組合 新・理事長のご挨拶と報告

【ヒルズ管理組合】 理事長 富永 敏通

ヒルズ管理組合の第 25 期の理事長を務めることになりましたアーバン管理組合理事長の富永敏通です。

アーバン管理組合とヒルズ管理組合で長年理事長をしてこられた上田達雄氏が急遽転居された後を引き継ぎ、何もわからないままに、この度ヒルズの理事長を務めることになりました。A.CITYは自然が多く環境の良い所で人気のある街です。しかし築 25 年になり建物等も修繕が必要になってきており、住区の皆様の生活に支障のないよう、その都度修繕等をするようにしております。またヒルズは植栽も多く、25 年も経つと木々も大きくなり、毎年剪定等を行う必要があります。残地林についても腐食による立ち枯れや倒木（とくに台風による）が目立ち、現在障害が起きないうちにと、早めに支障木の伐採をしております。

これから 30 年目、40 年目と住み良い環境・住区を維持するため、現地の見回り・点検等を実施し、より良い街にするため務めていきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

《お詫び》 先月発行号(第 146 号)の記事に誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。

① 1 面／「A. C I T Yの行事予定」

（誤）2月1日（土）有価資源ごみ回収日 → （正）2月8日（土）有価資源ごみ回収日

② 3 面／「ご存じですか？大塚・伴南ボランティアバンク」

（誤）電話／082-848-1777 → （正）電話／082-849-1777